

事務事業評価シート

事業番号	47					
事業名	相模川ビレッジ若あゆ(野外体験教室管理運営費)	局名	教育局			
		部名	学校教育部			
事業開始年度	平成8年度	課名	相模川自然の村野外体験教室			
根拠法令等	相模原市立野外体験教室条例	所属長名	青木正利			
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託又は指定管理(委託先又は指定管理者: 西洋フード・コンパスグループ(株)) <input type="checkbox"/> 補助金(補助先:) <input type="checkbox"/> その他()					
事業概要	目的 (何のために)	体験学習及び集団宿泊生活の中で自然や人とふれあうことにより、児童・生徒の創造性、主体性を培い、豊かな心を育むことを目的とする。				
	対象 (誰・何を対象に)	施設利用の対象 (1) 小学校、中学校、中等教育学校等(教育課程の一部として) (2) 青少年団体、青少年育成団体等				
	事業内容 (手段・手法など)	<施設概要> ○40種類以上に及ぶ体験メニューを整え、「生きる力」を育てる学校の教育活動の一環として、さがみはら教育の特色の一つである「豊かな体験活動」を具体的に展開する施設(教育課程の一環としての体験学習や集団宿泊体験活動を実施) ○学校教育活動に利用しない場合、青少年団体、青少年育成団体へ貸し出し <管理運営業務の主な内容> ○施設維持管理業務(清掃、機械設備保守点検、レストラン運営等)-指定管理者 ○窓口受付業務(青少年団体、青少年育成団体)-市職員 <参考> ○小・中学校等の体験学習が、教育課程に適切に位置づけられるよう学校を指導-市職員 ○青少年団体・青少年育成団体の体験学習支援-市職員				
	事業の必要性	学校教育活動については、体験学習の充実が新学習指導要領で示され、本施設における体験学習は、本市学校教育における体験学習の中心的な役割を担っており、今後より一層重要となる。 また、青少年団体等の利用についても、自然体験、生活体験の減少が指摘される中、教育委員会が体験学習の場を提供していくことは必要不可欠である。				
コスト			平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度予算	
	事業費(直接経費)		100,622 千円	99,730 千円	98,142 千円	
	人件費	正規職員	従事者数	5 人	3 人	3 人
			概算人件費	36,325 千円	21,795 千円	21,795 千円
		嘱託職員・臨時職員等	従事者数	0 人	0 人	0 人
			概算人件費	0 千円	0 千円	0 千円
	人件費 合計		36,325 千円	21,795 千円	21,795 千円	
総事業費		136,947 千円	121,525 千円	119,937 千円		
市民一人あたりの事業費		0.19 千円	0.17 千円	0.17 千円		

		平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度予算	
財源内訳	国・県支出金	千円	千円	千円	
	受益者負担金	千円	千円	千円	
	その他(施設使用料、公衆電話使用料)	5,811 千円	5,456 千円	5,278 千円	
	一般財源	94,811 千円	94,274 千円	92,864 千円	
平成23年度 事業費の 主な内訳 (人件費を除く)	項目			金額	
	指定管理料			96,160 千円	
	役務費(電話料)			414 千円	
	使用料及び賃借料(公共施設使用料:若あゆ、清流の里)			1,488 千円	
	使用料及び賃借料(公用車リース料)			80 千円	
活動実績1	活動指標名	単位	H21年度実績	H22年度実績	H23年度見込
	利用者数	人	20,722	18,323	19,000
単位当たりコスト1	(総事業費/活動指標)	千円	6.6	6.6	6.3
活動実績2	活動指標名	単位	H21年度実績	H22年度実績	H23年度見込
	体験活動実施者数	人	84,546	60,065	70,000
単位当たりコスト2	(総事業費/活動指標)	千円	1.6	2.0	1.7
成果目標 (現状の成果及び 今後どのようにした いか、定量的な評 価で示す)	開所以来毎年約2万人以上の利用者を数える等、子どもたちの生きる力を育む宿泊体験学習施設としての役割を果たしてきているが、今後も利用者の満足度を高め、稼働率の向上に努めていくことで、更に多くの市民等に宿泊体験学習等の場を提供していく。				
成果実績	成果指標名	単位	H21年度実績	H22年度実績	H23年度見込
	稼働率	%	83	78	80
特記事項 (事業の沿革等)					
事業の自己評価 (今後の事業の方 向性、課題等)	本施設では、主に学校教育の教育課程に基づく活動を展開していることから、教育委員会がその管理運営を行い、施設維持管理業務のみ指定管理者制度を導入している。 今後、より多くの子どもたちへ豊かな宿泊体験学習の場を提供していく上で、一層効率的な管理運営の可能性を探るため、指定管理業務の範囲の拡大について検討を進めていく。				
評価	《評価の視点》	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 <input checked="" type="checkbox"/>ある <input type="checkbox"/>ない ・ 有効性 <input checked="" type="checkbox"/>ある <input type="checkbox"/>ない ・ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/>ある <input type="checkbox"/>ない 			
	《評価の区分》	<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 民間 <input type="checkbox"/> 再構築 <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充			
	《評価区分の理由》	<p>学校教育における体験学習の推進や青少年への体験学習活動支援等は、学校教育、社会教育を担う教育委員会において今後ますます重要な役割となるとともに、特に、教育課程内の学習では、学習指導要領の狙いや市の教育方針等に沿った活動が求められることから、その管理運営は教育委員会が実施していく必要がある。したがって、施設維持管理業務のみ指定管理者制度を活用する現行の管理方法により、宿泊体験学習施設としての役割を果たしていくことが適当である。</p> <p>なお、今後、教育課程に基づかない青少年団体等の利用受付や体験活動支援等を指定管理業務の範囲に含めることが管理運営の効率化に資するかについて、教育課程に基づく活動に配慮しつつ現在の指定管理期間終了に向け、検討を行うものとする。</p>			
H24年度 予算への反映	精査を行った上で、必要な予算を計上				
経営評価委員会 による意見	<ul style="list-style-type: none"> ●現状維持 ⇒ 見直し ・目的を同じくした施設であり、小学生を中心として必要性は高いものの、運営の効率性について検証を行った上で、利用者に選択の幅を広げるため、両施設の立地など特色を活かした運営を行う必要がある。 				